荒尾市立府本小学校　校長便り　№６４

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和８年１月７日(水)

あけましておめでとうございます

今日は冬休み明けの集会が実施されましたが、子ども達の元気な姿が私のモチベーションを上げてくれたのと同時に、「いよいよ始まったな…」という緊張感も覚えた一日でした。

冬休みを振り返ってみますと、我が家の年末は室内の換気も含め家庭訪問並みの大掃除をしました。奇麗にはなりましたけど、年末年始のお正月気分を味わう余裕もなく、あっという間に休みが終わったという感じでした。

さて、「1月」「2月」「3月」は、それぞれ「行く」「逃げる」「去る」と表現されるように、あっという間に時間が過ぎていきます。6年生を例にとってみましょう。6年生が小学校で過ごすことができる期間はと考えてみますと、なんと残り50日くらいですね。早いですねぇ。ピカピカの1年生として入学した日からもう6年が過ぎようとしているのです。そんな視点で6年生を眺めていますと、「かけがえのない時間を大事に過ごして欲しい。自律して欲しい。」と切に願う澤田です。

卒業前雑感～中学校とは②「苦手意識」

私が中学時代苦手だった教科は国語です。読解力はそこそこにあったと思うのですが、どうしても点数は低かったです。他教科はといえば、数学はいつも?低い点数でした。苦手意識が国語と数学にあった訳です。国語と数学の苦手克服はとても大変です。一夜漬けで点数の取れる教科ではありませんから、毎日の継続が絶対に必要です。

全国的には苦手意識が高い教科は何だと思いますか。それは英語です。苦手教科に挙げられた理由は色々考えられますが、その一つとして英語を使うシチュエーションが少ないことが挙げられます。しかし逆にいえば、この時期、英語を得意教科にしてしまえば、後は順調に進むことは珍しくありません。英語は中1の前半での授業理解と学習法のマスターが大切な教科といえるのではないでしょうか。

私は最近、英語の必要性について身につまされています。海外の仲間とのメールのやり取りに必要だからです。頑張っておけばよかった…。今となっては後の祭りです。

卒業前雑感～中学校とは③「親」

思春期入口の6年生ですが、今後数年間で見違えるような成長を遂げるのも、この時期の特徴です。親子関係も劇的な変化があります。私の場合、父のことが煙たくなり、母には話をしたいのですが何となく照れくさくて、邪けんな態度をとっていました。このようにして、世の親や子は親離れ子離れを成し遂げていくのです。

親は、子の近くにいてすぐに手を差し伸べるという存在から、少し離れて成長を見守る存在になります。子どもを信じるということは大事ですが、信じてばかりでは思わぬことが起こることもあります。「うちの子に限って」ではなく、「もしかしたら…?」という視点で子ども達を見ることも必要になってきます。しかし、気になって子どもの生活の一部始終を知りたくなる気持ちも分かりますが、いつまでも親が入りすぎると、成長を妨げることになります。個人差はありますが、助言を求められたら積極的に相談にのり、それ以外のときは「最近どぉ?」と尋ねるくらいにしておいた方がいいかもしれません。子どもは子どもなりに葛藤していますから。

シリーズ「自分を語る」#６４

「赤団と黄団のデッドヒートです、どちらもがんばれ!!」放送係の実況にも熱が入ります。私達は赤団です。殆ど同時に決勝テープを切ったようでした。決勝係の先生方が協議しています。結果は…!?　ここまでしたね。

私は時間が止まったような錯覚に陥っていました。放送係から結果のアナウンスがあるまでがとても長く感じましたね。子ども達も同じ気持ちでした。

「6年生によります学級対抗リレーは1位黄団、2位赤団…」

その後は、私には何も聞こえませんでした。子ども達は運動場から私の方を見ていましたし、私も子ども達の方を見ていました。こうして書くとドラマの様なシーンにも感じますが、そんなものではありません。お互い、かける言葉が見つからないのです。私は黙って拍手するだけでした。閉会式と後片付けが終わり、教室に戻るまで誰もリレーの話題には触れませんでした。仕方がないので、結局私から言葉を発するのですが、私が「よく頑張ったな。」と声を掛けると、数名の子が泣き出してしまいました。ほんとにかける言葉が無いので、どうでもいい言葉が浮かんでは消え浮かんでは消え、最後に出てきた言葉は「これも思い出だい！　また、頑張ろう!」現実を受け入れないといけませんし、いつまでも泣いている訳にもいかず、子ども達も無理やり自分の心の中に悔しい思いを押し込んでしまったようです。当時の子ども達は現在37歳かな、同窓会の度にリレーの話題が出て、大変盛り上がります。「お前がバトンば落とすけん負けたぞが。」等と、今では笑い話となっています。この年の6年生とは、本当に多くの行事を行いました。そういう意味で大変充実した毎日を送りました。

玉名町小学校で5年目を迎えていた私にとっては、追い風の時期だったように思います。必ずと言ってよいほど保護者の方が協力をしてくださるようになり、子ども達も各種の行事を楽しみにしていました。当時の私は、1年を4つのスパンで区切り、スパンごとに目標を設定し、目標達成のために何をなすべきかということと、行動や力のベクトルを同じ方向に向けることに、かなりのエネルギーを注いでいました。その結果、子ども達は集団で同じ方向へ向かう時の心地良さを感じ、その心地良さの中で派生するプラスの効果が、更なる学級集団の伸びに影響を与えていました。そういう意味で私が担任として行った仕事は、4月に行った「所信表明」だけだったような気がします。5年生から持ち上がりの学年だったので、そういう意味での良い学級経営ができていたのかもしれません。

そんなこんなで、楽しい時間を過ごしていた私澤田です。平成12年度末、またまた校長室に呼ばれました。

「澤田先生、来年度は5年生をお願いします。」

「はい、精いっぱい頑張ります。」

平成13年度も、周囲の予想通り高学年を担任させて頂くこととなり、その年も「ナイトハイク」「キャンプ」「登山」「スケート」その他、子ども達が喜びそうな行事を考え、そして仕組んでいくことに全力を注いでいきました。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）